⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、816億円の受取超過であって、前年同期（656億円の受取超過）に比べ、160億円受取超過額が増加した。収入は、前年同期（658億円）に比べ、2,691億円増加して3,349億円となった。一方、支出は、前年同期（２億円）に比べ、2,531億円増加して2,533億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入1,436億円、支出6,083億円、差引き4,647億円の支払超過であって、前年同期（832億円の支払超過）に比べ、3,815億円支払超過額が増加した。

保険の収支は、収入10兆193億円、支出10兆4,151億円、差引き3,958億円の支払超過であって、前年同期の２兆1,493億円の受取超過から支払超過となった。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第２・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	295,259	188,999	106,260	271,270	212,958	58,312
国債(１年超)	292,450	186,191	106,259	268,542	210,255	58,287
借入金	2,809	2,808	1	2,728	2,702	25
国庫短期証券等	1,111,496	1,009,662	101,834	796,760	736,007	60,753
国庫短期証券	1,017,171	913,662	103,509	700,760	637,043	63,717
一時借入金	94,325	96,000	△ 1,675	96,000	98,964	△ 2,964

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、10兆6,260億円の受取超過であって、前年同期（５兆8,312億円の受取超過）に比べ、４兆7,948億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行29兆2,450億円、償還18兆6,191億円、差引き10兆6,259億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入2,809億円、償還2,808億円、差引き１億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、10兆1,834億円の受取超過であって、前年同期（６兆753億円の受取超過）に比べ、４兆1,081億円受取超過額が増加した。国庫短期証券の収支は、発行101兆7,171億円、償還91兆3,662億円、差引き10兆3,509億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入９兆4,325億円、償還９兆6,000億円、差引き1,675億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 53,582	△ 23,587	△ 77,168
特別会計等	10,938	134,338	145,276
財政投融資	49,228	16,908	66,135
社会資本整備事業	△ 4,647	7,322	2,675
外国為替資金	816	1,204	2,020
保険	△ 3,958	△ 2,868	△ 6,826
その他	△ 30,502	111,773	81,271
小計	△ 42,644	110,751	68,107
国債等	106,260	△ 22,733	83,527
国債（１年超）	106,259	△ 22,325	83,934
借入金	1	△ 408	△ 407
国庫短期証券等	101,834	△ 88,019	13,815
国庫短期証券	103,509	△ 88,103	15,406
一時借入金	△ 1,675	85	△ 1,590
合計	165,449	—	165,449
調整項目	3,235	—	3,235
総計	168,684	—	168,684

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成21年度第２・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	8,899	△ 6,414
特別会計の債券売・買（△）	△ 101,586	△ 70,771
財政投融資	△ 61,001	△ 36,460
国債整理基金	△ 40,585	△ 34,311
その他	△ 76,273	△ 60,079
計	△ 168,960	△ 137,264

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、16兆8,960億円の支払超過であって、前年同期（13兆7,264億円の支払超過）に比べ、３兆1,696億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達６兆3,600億円、資金返済５兆4,701億円、差引き8,899億円の受取超過であって、前年同期の6,414億円の支払超過から受取超過となった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、10兆1,586億円の支払超過であって、前年同期（７兆771億円の支払超過）に比べ、３兆815億円支払超過額が増加した。財政投融資は、６兆1,001億円の支払超過であって、前年同期（３兆6,460億円の支払超過）に比べ、２兆4,541億円支払超過額が増加した。国債整理基金は、４兆585億円の支払超過であって、前年同期（３兆4,311億円の支払超過）に比べ、6,274億円支払超過額が増加した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、７兆6,273億円の支払超過であって、前年同期（６兆79億円の支払超過）に比べ、１兆6,194億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（16兆8,684億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（3,235億円の受取超過）を除いた収支は、16兆5,449億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、16兆8,960億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（２兆4,678億円）に比べ、3,510億円減少して２兆1,168億円となった。